

【研究協議題】 「生きる力」を育成する教育課程の編成・実施・評価
～コミュニティ・スクールの機能を生かした取組～

【解説】

学校は、子どもたちの規範意識や社会性の低下、生活習慣の乱れによる学習意欲の低下など多くの課題を抱えている。こうしたことを背景に、いじめや不登校など様々な問題が起きている。

子どもたちの「生きる力」は、多様な人々との関わりや様々な経験を重ねる中で育まれるものであり、地域社会とのつながりは、子どもたちの成長に豊かさとたくましさを生み出してくれるものである。こうした意味で、教育課程の編成・実施・評価にあたって、コミュニティ・スクールの機能を生かして家庭・地域との連携を図ることは、必要不可欠なことである。

校長として、子どもたちの「生きる力」の育成のために、教育課程の内容の質の向上やその実施に向けた体制づくりについて、常に工夫・改善を進める必要がある。

取組にあたっては、「生きる力」を育成するための教育課程の編成・実施・評価における家庭・地域との連携や小中連携の取組の中で、校長としてどのような働きかけを行ったか、役割や課題について研究を深めたいと考えている。

【研究の視点】

家庭・地域との連携を生かした教育課程の編成・実施・評価

小中連携による教育課程の編成・実施・評価

特色ある教育課程の編成・実施・評価

第2分科会 「学習指導」 （担当 萩・阿武地区 提案者 大島中学校長 野村 泰）

【研究協議題】 生涯にわたり学習する基盤を培う「確かな学力」の定着と向上
～小・中連携や地域連携を生かした取組をとおして～

【解説】

萩・阿武地区の中学校は学校規模や立地等により教育環境は大きく異なっている。しかし、生徒たちが生きていく未来は知識基盤社会の進展とともに、グローバル化が一層進む変化の激しい社会であることが予想される。このような社会をたくましく生き抜くためには基礎的・基本的な知識及び技能やそれらを活用する力、さらには自ら学ぶ意欲等の「確かな学力」の定着と向上は欠かせない。どのような教育環境で学ぼうと、生徒一人ひとりが自らの未来を切り拓くための「確かな学力」を確実に身に付けるためには、教師の授業力を高め授業改善を進めていくことはもちろん、生徒の学習環境も同時に整えていくことが必要となる。しかし、このような取組は中学校だけで校内体制づくり等を工夫して取り組んだとしても十分に成果を上げることは難しい。

発表では、萩・阿武地区中学校長会の取組として、学校の規模や教育環境に応じた他機関との連携の工夫が必要であると考え、小学校との連携を図る「小・中連携」やコミュニティ・スクール等を活用して連携を図る「地域連携」を中心におき、校長としての働きかけを視点にした研究実践を進めることとした。

【研究の視点】

義務教育9年間を見通した研修体制作りの手立て

家庭での学習習慣を確立するための手立て

コミュニティ・スクールの機能を生かした地域の教育資源を活用するための手立て

【研究協議題】 心に響き、心を耕す道徳教育の充実
～ 「道徳の時間の教科化」を踏まえた学校づくり ～

【解説】

道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」はもちろん、「確かな学力」や「健やかな身体」の基盤ともなり、児童生徒一人ひとりの「生きる力」を根本で支えるものである。また、道徳教育は、個人のよりよい人生の実現はもとより、国や社会の持続的発展にとっても極めて重要な意義をもっている。

平成27年3月に「道徳科」の実施に向けた改正学習指導要領が告示され、中学校においては31年度から検定教科書を活用した「道徳科」が全面実施となる。移行措置として、すでに27年度からの取組も可能となっており、道徳教育を一層充実させていくためには、各校において、その実情や課題を踏まえ、教科化に備えた計画的かつ具体的な準備を早急に進める必要がある。

下関市中学校長会としては、市内で共通に実践している「コミュニティ・スクール」「互見授業」「小中連携」等も効果的に活用しながら、以下に示す3つの視点で、教科化を踏まえた道徳教育の工夫改善を試みることにする。

研究2年目となる28年度は、各校での取組を踏まえて、「成果と課題の検証による今後の道徳教育の在り方」を提案したい。

【研究の視点】

教科化に対応した学校組織づくり（CSの取組を含め）について

道徳の授業改善に向けた手立てについて

道徳教育推進教師の育成と教職員一人ひとりの授業力の向上について

【研究協議題】 健やかな身体の育成と体力の向上を図る教育の充実

【解説】

山口市校長会では、前年度まで「健やかな身体育成部会」と「体力向上部会」の二つの部会で、「健康教育」の在り方について研究を進めてきた。

成果としては、地域とともに創る「健康教育」という視点では、各学校とも小中連携、CSや地域協育ネットの仕組みをとおして、子どもの体力向上のための取組が図られていることが挙げられる。さらに、どの学校も地域コーディネーターとの連携が十分とれている現状が把握できた。課題としては、体力向上プランの効果的な活用、教職員の理解と協力体制を構築するための地域担当教員の位置付け、「地域貢献」のさらなる推進等である。

本年度も研究協議題、研究部会は踏襲しながら、これまでの視点から主として校内、小中連携の取組に焦点をあてて、「健康教育」の推進について研究を深めたいと考えている。

【研究の視点】

健やかな身体の育成を目指した学校保健の取組

健やかな身体の育成を目指した小中連携の取組

小中連携による体力向上の取組

【研究協議題】 未来を切り拓くためのキャリア教育の視点に立った進路指導の充実
～愛・夢・志をはぐくむ教育 「しなやかさ」と「なごやかさ」を育てる～

【解説】

平成26年12月に発表された中央教育審議会答申で、大学入試の抜本的改革が打ち出された。子どもたちにせまる新しい時代に通用する力を育む教育改革が待ったなしとの指摘に大きな責任を感じるのは皆同じであろう。答申の中で、社会で自立して活動していくために必要な力という観点からとらえ直した学力の三要素の再定義は、まさにキャリア教育の視点からのとらえ直しとも言えよう。

柳井市では、27年11月に「愛・夢・志をはぐくむ教育」を教育目標とする柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画が発表され、28年4月から第1期がスタートした。キャリア教育については、「志を実現させるための力の育成～生きる力の確実な育成を基盤としたキャリア教育の推進～」として、3つの基本方針の中の一つに位置付けられている。

1年次の実践を踏まえ、以下の3つの視点から、研究協議題にせまる校長の役割について研究を進める。

【研究の視点】

体系的、組織的なキャリア教育の推進

キャリア教育の視点で見直した授業スタイルの確立と共有化

学校・家庭・地域が一体となったスクール・コミュニティによる人づくり

【研究協議題】 自己肯定感や達成感のある豊かな学校生活を築く指導の充実
～生徒指導の3機能を生かした教育活動～

【解説】

昨年度、市校長会では生徒指導の3機能(「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」)を生かした教育活動について、「授業づくり」、「異校種との連携」、「地域・家庭との連携」の3グループに分かれ、具体的な取組について研究した。

本年度は、授業づくりは最良の開発的・予防的生徒指導であるという理念のもと、3機能を生かした授業の在り方に焦点を絞り、研究していく。

研究の視点としては、組織的な取組となるような校内体制の構築と、学校・家庭・地域及び小中の連携の強化を校長としてどのように図っていくか、とする。また、市内全小中学校が指定を受けている、コミュニティ・スクールの強みも、研究に生かしていく。

全校体制で3機能を生かした、「授業づくり」と授業を支える「環境づくり」を中心に取り組むことにより、生徒の自己指導能力を育成し、豊かな学校生活を築いていきたい。

【研究の視点】

生徒指導の3機能を生かした授業の在り方

校内体制の構築による組織的な取組の在り方

学校・家庭・地域の連携の在り方

【研究協議題】 質の高い教育を実現するための人材育成の推進
～ 外の風によって教師を育てる取組～

【解説】

社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、学校はこれまで以上に様々な課題に直面するとともに、多くの役割が求められている。あわせて教師に寄せられる期待や要望も強まり、質の高い教育を実現するための人材育成は、喫緊の課題の一つである。

こうした中、昨年度、岩国支部が発表された「信頼に応えられる教員の育成をめざした校長の取組」では、6つの視点(「仕事で教師を育てる」「管理職や先輩で教師を育てる」「現場で教師を育てる」「評価で教師を育てる」「生徒・保護者によって教師を育てる」「外の風によって教師を育てる」)から、調査研究を進められた。

これを受け、山陽小野田支部では、6つの視点のうち「外の風によって教師を育てる」に焦点を絞り、更に研究を掘り下げていくこととした。現在、各校で進めているコミュニティ・スクールや地域連携、小中高連携、外部講師招聘による研修会、県主催事業の活用などの実践を通して、その取組の効果や有効な活用の在り方について調査研究をする。

校長として周りにある有効資源をいかに活用して人材を育成していくのかを、教職員への意識調査等を通して成果と課題の検証を進めていきたい。

【研究の視点】

外の風によって教師を育てる具体的実践例
取組事案の課題解決に向けた新たな工夫
教職員の資質向上と意識の変容

第8分科会 「学校経営」 (担当 大島地区 提案者 久賀中学校長 重原 冷子)

【研究協議題】 時代の要請に応える学校経営の充実

～学校・家庭・地域の連携で子どもたちの育ちを応援するCS運営～

【解説】

山口県がめざす教育目標は「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」であり、教育振興基本計画10の緊急・重点プロジェクトの一つに「地域ぐるみでの教育推進プロジェクト」を掲げ、保護者や地域住民が学校運営に参画するコミュニティ・スクールの設置促進とともに、地域ぐるみで子どもたちを見守り、支援していく方向性を示している。また、県政運営の方針「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」においても、人材活力創造戦略の重点施策に「社会総がかりの地域教育力日本一」を掲げており、学校、家庭、地域の温かい絆づくりを進めている。

それを受け、周防大島町においても、「自立・協働・創造～ふるさとに誇りがもてる人づくり・地域づくり～」を教育の基本目標として、学校、家庭、地域が連携して『地域とともにある学校』『地域の中の学校』をめざしている。周防大島町内には、5つの中学校があり、各地域性を生かした取り組みを展開している。そこで、中学校区ごとの取組について、校長としての視点から、地域との関わりの組織作り、地域とのつながり、その継続方法を研究していくこととした。

【研究の視点】

地域との関わりの組織作り

地域とのつながり

P D C A サイクルによる継続方法